

山車・大幟・四神鉾

— 祭りを彩る祭礼具 —

千住四丁目氷川神社(千住4-31-2)には、明治16(1883)年に調製された江戸型山車が伝存しています。高さ約7.53m、幅約3.60mの三層構造で、最上部には静御前の人形が乗っています。神社の大祭や明治の憲法発布を記念した御大典で千住の町を巡行したと伝えられています。また、宝暦2(1752)年9月に氏子中により奉納された長さ18mの大幟も残されています。



▲平成20年の大祭で拝殿前に飾られた四神鉾。左から青龍・玄武・朱雀・白虎。

千住仲町氷川神社(千住仲町48-2)には、全長約5mに及ぶ四神鉾が保存されています。天保4(1833)年9月に氏子中によって奉納されました。「四神」とは、中国神話に登場する四方を司る神獣で、東を青龍、西を白虎、南を朱雀、北を玄武が守っています。朱地に金糸で「掃部宿」と巴紋が刺繍された幡の上に、四神像が据えられています。



◀博物館田常設展示の1階ホールに展示されていた山車
一層目は総檜造りの囃子台、二層目は緋羅紗に鶴と若松が刺繍された四方幕、三層目は人形師原屋五平衛作と伝えられる静御前の人形が乗っています。現在は当館に保管されています。

大幟「氷川大明神」▶
【氷川大明神】の文字は、江戸中期の書家・細井久章の筆。大幟は、5年に一度の大祭時に拝殿前にかげられます。

